

親学フォーラム ワークショップ

堀川小学校校長 恒田 勉氏

(司会) お疲れのところありがとうございます。恒田先生のお話をうけまして「健康と体力は生きる力の基礎」ということで、これから約1時間半ということで行いたいと思います。それでは先生、よろしく願いいたします。

(恒田) 恒田でございます。どうもよろしく願いいたします。

(会場一同) お願いいたします。

(恒田) 初めて参加して...あとお二方はずっと出ておられるというふうに聞いていたんです。何を話していいかわからないので、言いながら「ちょっとズレているかな」と思いつつ自分の言いたいことを勝ってに言いました。少しでもわかっていただければと思うんですが。まず最初にこの「健康と体力」というふうな事で今日のテーマをいただいたわけです。最初に僕は何を思ったかという、人が少ないと思ったんです。確かに申し出によりますと14名の方であったわけですね。何故かといったら、皆さんのお子さんを見ておられて、病気をしないで学校へ行っていれば健康と体力...そんなことは恐らく問題視しておられないだろうというのは通常です。そうあってはおかしい話ですよ。ですから、ここにもしこられただけ大変だなと思って。ここに関心をお持ちの方というのは、本当にそれこそ「僕に答えられるかな」というふうに思っていたんですが、私が思うのはここでそれぞれの問題あるいはそれぞれ考えていることを出し合って、私もその中に参加させていただいて、そこで何かひとつ皆さんにお土産がそれぞれ作っていただければいいなというふうに思っております。

早速はいるわけなんですけれど、私の資料を確認しておきたいと思うんですが。実際の話これは、最初のレジメの一番最初に書いたのは生きる力という当たり前の事を書いてあるんです。ただここで言いたいのは、今先程も3つ言いましたけれども、学力問題で「確かな学力」でしょう。それからいろんな事件とか事故とかいろんな事が起きています。先程の高橋先生の話の一番冒頭に出てきたのも子供の事件ですよ。ああいった事になると、やはり心の教育と言うことで「豊かな人間性」。ここまではいいんですけど「健康と体力」と言われるとどこまでやっているのかなと。私達も実際の現場は3つとは言いながらも「健康と体力」ということについてどこまでやっているかと。どこまでだという意識はあまりないわけです、はっきり言いまして。実は中教審...中央教育審議会の答申でも、この「健康と体力」については生きる力の決まりですよ、不可欠ですよと書いてあります。当然「健康・体力」がなかったら2つは出てこないわけで。実際先程もお話ししましたが、朝

来て眠い顔している子がいます。それから気怠い顔で元気のない子もいます。そういった子供達を見ていて、一方では元気に日々過ごしている子供もいます。そういったことを最初に言いたかったわけです。これが最初の資料というのは、今生きる力、確かな人間性、健康...ちょっと印刷が悪いんですけど、参考にと。この3つがバランス良くやることが生きる力につながりますということ。

次です。次のページ裏へ行っていただくと、「子供にとって体力とは」というのは、実は私も知らないくて申し訳ないんですが、こういうのを見たことがございます？こういう...これは保護者用です。中・高学年用...うちの学校は、ちょっと見ていなかったんですけど、何かと言ったら子供にもいっているし保護者にもいっていると、ところがうちは、子供の数の分...6年生は足りなかったという話をしておりましたが、そこの抜粋です。こういうものがいっています。

次です。これがこの間の運動能力調査の結果。これ一番問題なので最初から言っておきます。実は何が問題かという、グラフがありますね、週一日らんというところが問題ですよ。これがちょっと気になります、男性の女性化が進んでいるということをお願いね。次もここに載っているものです。それから「生活習慣チェックカード」というのがあります。これも小学校高学年で家庭にいつているというか...見たことございます？

この中に「生活習慣チェックシート」というのが載っているわけで。それを...これはなかったかな、これはどこからとってきたかという、もうインターネットを開けば文科省のに出ているんですね。今主張したいのは、食べる...ここに、動く、休むというふうに書いてあるんで、「健康・体力」にとって食事ということと運動ということと休養・睡眠というのは大事ですよ。

じゃあ具体的になんなのかというのは、例えば「食べる」なら4つの項目が出ています。「動く」は3つ出ています。「休む」には3つ出ています。こういう事をひとつ頭に置いて日々の子供を見ていくといいですよという意味の資料です。

それから次です。あとはうちの宣伝です。先程も話が出ましたけれども、朝のトレーニングがここへ繋がっているということです。それを言いたいがためにここに置きました。という資料の確認です。

最初に、今日の『北日本新聞』を読まれた方『天地人』を読まれました？何が書いてあったかという、最近健康ブームであると。要するに酒をやめる休肝日を設けたりウォーキングをしたり食事に気をつけたりしてきて、やっているんだが日本人は本当に健康になっているかというので。そうしたら、これは平成22年までに「健康作り10ヵ年」計画を立てたと。そこで食事と...食生活やうんぬん70項目・110の目標値を決めて集計をしたと。暫定値だけれど、これがむしろ不健康になっていると。その代表が...代表というかここへ上がっているのが20歳から60歳男性のうち肥満を24.3%から15%以下にするのが目標だそうだけれど、これが現在29.4%に増えている。それから40代から60代の女性も25.2%から1.2ポイントということは26.4%になっていますよ。女性に強いのはスリムな体型

にという「やせ」というのは 23.3%、これがずっと前。それが現在 26.9%になっている。さっきお酒の話も出ましたけれど、3合以上毎日呑む「多量飲酒」。男の人で 4.1 から 7.1 に倍増している。これは健康ですかと。ただいいのは、塩分摂取量と虫歯のない幼児の割合など 110 の目標のうち 30 くらいはまあいいだろうと、いうふうに書いてあります。だから現在そうだということで、子供も同様なことを心配をしないといけないというのが最初の言いたいことです。このレジメにあわせていきますが、最初のところは生きる力というのはいいと思いますけれど、そのこの 3 番目の、実際こういう子供に...眠い目をこすっている子とか、食事をきちんととらない...朝食をとらない子供もいます。こういった子供がまず元気が出ません。何をやってもぐたっとしてます。もちろん朝のトレーニングもいいかげんですし、まずねばりがないという事です。なぜこういう事を言うのかというと、皆さん頭の中ではわかっているけれど 実際の話、食べてこなかったらうちの先生方がパンを買ってきて、食べさせなくては立てない位になってしまう子もいるわけですよ。それは家庭の事情もいろいろあるんですけど。それから本当にねばりのない子供達を見ます。ですから、今うちはやっているんですけど、これをやっていることによって先程言いましたように、やはり体がイキキします。眠い体でいくのではなく脳の活性化をするという意味では非常にいいということで。

次にいきます。今のレジメのページ数にして 2 ページです。ここに平成 14 年度の親の世代と今の子供達の比較が書いてあります。結論的に言って子供達の運動能力調査をやっても、どんどん落ちてきていますよということ。ただ身長は伸びたりしているわけですけども。このデータを見ても、たかだか 0.16 秒をおっしゃる。***メイトオリ***してもやはりせいぜいで 3 メートルちょっとくらいですよ。これ平均値ですよ。そう考えるとすごい大きい事になるわけです。ですからはっきり言って、身長は大きくても走力・投力ともに落ちております。そういうことの現実がここにあるわけです。これがずっと 10 年来続いているし...60 年からね、だからどんどん運動能力も体力も落ちてきているという現実がさらに、次のページの 3 ページ目にはっきりしています。今回の場合、運動をしている子供とそうではない子供の比較があります。そこにありますように「週 1 日以上」というのは、要するに週 1 日以上体を動かして、少なくとも何らかの運動をしている。「週 1 日未満」というのはそういう運動をあまりしない子供の比較が出ております。そこで問題なのは、いずれにしても、やっけていても落ちているだけけれども運動をやっていない子供の 50 メートルタイムが落ちていると。男子を見ていただくと、そのカーブがより急になっています。更に言えば男子も女子も変わらない。1983 年では男女の差があったんだけど、運動しない子はほとんど変わらない状態になっているところの方が問題でありましようということ。そうなってくると私個人的に考えたんだけど、今男の子と女の子の違いとして 5・6 年生になってくると、やはり女の子は元気ですよ。精神的にも 2 年ほど違いますね。こういう事を考えてみると、僕らの年代だったら男の子の遊びと女の子の遊びが違っていましたよね。全く違っている。ところが今はそういう状態じゃなくてほとんど同じ。

ひとつあげればゲームでやるというような、要するに体を動かさない日常の暮らしそのものでやっているというところでしょう。ですから、むしろまだ女の子はまだ家の手伝いだとか、あるいは友達の所へ行くなど積極的に動いています。だから体を動かすことが多いんですね、男の子は本当にやっていない子が多いしアレルギー体質も女の子より男の子の方が多いですね。どうしてかなと思うんだけど。そういったことで、これから先男の子・女の子という区別がなくなってくるというようなこと、それは時代としていいんだけど、その代わりそれぞれの役割があるんだし...中学校へ行くと男の子がどんどん成長していくのであまり差がないというふうに。そして運動能力も落ちていないとおっしゃる。だけど私が心配するのは、小学校の時にそれだけ落ちたら中学校で一時上がっても将来的に、本当にこれが維持できるかと言われると非常に問題ではなからうかというふうに思っています。

次に4ページ目にいっていただくと、これは読んでもらえばいいです。言いたいのは、右の上の方に書いてあります「よく食べて、よく動いて、よく眠る」ということだろうと思います。それしかない。だからうちの学校で言えば、先生達の問題もありますが...担任の先生が一生懸命食べたら、子供も食べるんです。変な話で。私の教室は、よく言われたのが...私もよく食べたんですけど足りないんですね。足りなかつたら学年まわって教室回ってもらってくるのが得意だったんですけど。自分自身がそうだったからかもしれないですけど、やはり自分が動いてお腹がすくから食べたいと。そうすると子供にとって親が一生懸命動いて食べるというような事が、それに繋がっていくじゃないかなと思います。学校というのは、この「健康と体力」というのはどこまでやれるかという、体育の授業でどれだけやれるかというあまりやれないんですよ。今少年団に入っている子とそうでない子の差はすごく大きいです。格段の差がありますね。それがこのあとどうなるかと言われると、運動のやりすぎという問題もあるんですね。ずっと下へ行くと「これ、本当に大丈夫なんだろうか」というふうなことを思います。それはもう意欲も全然違います。そういったことを感じます。あと塾ですけど、うちの学校で調査したら...これは本当かと思うんですけど、実は帰ってくるのが10時という子がいるんです。10時ですよ。「帰宅時刻は何時ですか?」と。そうしたら「10時」2年生1名、5年生1名、6年生2名です。ちょっと通常8時を...9時までいってみましょ。1年生なしです、2年生で5名、3年生で8名、4年生で3名、5年生15名、6年生7名、38と書いてあるんだけど。8時・9時、10時になったらこのあと宿題したり食事したり...食事はしてくるんだと思うけれど、睡眠時間はどうしても短くなりますよね。私は言いたいんです。これを非難することはしない、なぜならばその子供がリズムを作って親も協力してやっているんならそれでいいです。睡眠も充分にとれていればね。よく8時間睡眠をとりなさいという事は大事だと思うけれど、要は熟睡してぐーっと眠っているかどうかというのが問題になって、だから6時間でもいいですよという学者もいる。ここを...だけどやはり、我々一般的に見てこの4人の子供達、10時に帰ってきていったい何時に寝るんだろうと思うと心配になります。

それから、こうやって塾だけのをやってみると結構多いんです。具体的には言いませんけれど、こんなふうにして時代は時代ですから運動できない状況はいろいろあるわけで、取り立てて申しませんけれども。

あと次に言いたいのは、先に戻ります。健康・体力のために... 3番目です。食事・運動・休養・睡眠が大切ですよということが書いてあります。たまたま『NHK』のテレビ番組を見ていましたら、遊ばなくなった原因は保護者の皆さんはどう考えているのかと。これ1位は「ゲームのやりすぎ」というのが27%、2番目「外で遊ぶ場所がない」は23%、中でも「野球・サッカーはダメですという公園がほとんどである」、「親の過保護」が11%、「塾通いで遊ぶ時間がない」が10%、「安心して遊べない・治安の悪化」というのが9%。今やはり「不審者」ということで、うちの保護者のPTAの方も言われるんだけど、「公園で遊んでらっしゃい」という言葉が出ない。公園で遊びに行くよということを書いたら「大丈夫かな」という心配をする親がいるわけです。ましては堀川というのは、非常に不審者...交通事故が多いんだけど、子供の事故はないんだけど、やはり数人の少年がたむろして集まっているというふうな事の話を書きますと、なかなか難しいということがあります。あとは要因としての意識がそこに書いてある、これは当たり前のように言われているわけですね。

そこで、あと最後に私が言いたいのは、実際学校でやっていることです。先程も言いましたけれど、ここに書いてあることをそのまま言いました。本当はここだけで言うつもりだったんだけど、あそこの場でも言ってほしいと言われたので。そこに書いてあるように今毎日...だからこんなことがありますよ。冬雪が積もっているでしょう。雪をずらして、5・6年生が走路をつくってやります。こんなエピソードもありますし、実際やっていますし。これは私が来る前の卒業生で、「俺の卒業の時の服装としてふさわしいのは、運動の服装で卒業証書をもらった」と。なぜか。「僕は一番体を鍛えるには、この朝のトレーニングが一番良かったんだ」というので半袖の短パンなんですね、それをはいて卒業式に臨んだと。そういったことがあると、単純に朝トレをやっているでしょう？そういう単純な話ではないんですよ。実は確かに競争になってます。「あなたが2回なら私は3回」とかね。「あの人に負けられない」とわざわざそこへ行って競争するとかね。先程も言いましたが、うちで最後の立山登山で雄山の頂上へ登れないと言うのは半分恥です。そう思っています、伝統的にそうだと。ですから5年生になったとたんに、そこへ向けてトレーニングが始まる、ここでやるんです。こういう事を冬もずっとやります。冬は鉄棒もやりますし、あとここにも書いてありますが階段を利用したものもある。体育館でももちろん走ります。毎日ですから、私見ていると思うのは、欠席しても大抵長くて2日。3日とはかからないですね。大抵1日で戻ってくるんですね。これがすごいなと思いました。欠席率も減っていますし、去年は実は初めて...私これで5年目なんですが、5年目にして初めて...毎日トレーニングはやっているんですよ、意識的にやったのは去年からこういう指標というものをやったんで、運動会で欠席ゼロでした。初めてです、600名全員。もちろん運動会ですから全

部きているんですよ。もちろんこんな子がいるんですよ。その中には家の都合で来れない子、それからもちろん都合というのは旅行も入るし。あとうちには不登校の子がいるんですが、この子って実際に欠席に入らない。何故かというとは必ず一日、夕方来る子もいるわけですね。そういったのは出ているけれども...伝染病も入っていません。出席というのは入っていません。その時に去年は一度あったんだけど、今年は6月の頭から、6月の20に運動会をしたら6年生は欠席ゼロ。何故かというとは全部団の中心ならなくてはいけないので。そんなふうにしてやっていったら、トレーニングにも力が入りますし、意識的に自分で体を作らなくてはいけないのかなと思っています。このトレーニングは宿泊学習の体力作りに生かされていると。さっきは6年生と4年生を言いましたけれど、3年生...そこに書いてあります。大学前で降ります、リュック背負って。レジメの裏の方を見てください。3年生、大学前で降りて、そしてそこから呉羽山に遊歩道があるんですね、あそこをリュック担いでずっと行って、『呉羽少年自然の家』まで行っている。なんでそんなことをするんだという話になるんですけど、本来はその自然の家で活動するというのが大きな目標であるけれど、うちはそんなことではなくて、できるだけ人の手を借りないで自分の手でやっていくというので、できるだけ公共機関を利用する、できるだけ自分の足で目的地まで行くと。ですから遠足もそうです。多分皆さんの学校もそうなっているでしょうね、もうバスを使っていない。例えば何年生...3年生か。『ミラージュランド』まで行く時は市電に乗ってJRで行くでしょう、バスで行くでしょう、地鉄で行くでしょう。この3つのところから選んで行きますね。4人くらいファミリーになって行くというようなこともやっています。こんな事をやっているんですけど、本当に3年・4年・5年・6年...ちょっと多いんですよ。私のおりには4年生以上2泊3日で全部やっていたんだけど、どうしても4年生で宿泊学習をやると保護者の方にアンケートをすると、心配をいっぱい書いていらっしゃる。ビックリしたのが4年生でもホームシックにかかります。ビックリしたんですね、4年生でホームシックというのはちょっと頭の中になかったんですが、それが1人2人じゃなくて4~5人おりますよ、必ず。「お母さんに会いたい」とか「寂しい」とか。本当の話どうなっているのかと思うでしょう？ありますね。しくしく泣いているというのが。3年生なら...今年は1人2人いたという話で、「帰りたい」と言って泣いていた子が。でも1年生や2年生で...ましてや保育所・幼稚園ではお泊まり会みたいなものがあるんだしね、と思うんだけど...どうなっているのかなというふうに思いますけど。そういうふうになっています。5年生の場合、富山市の場合2泊3日で『子供の村 山田村』へ行くことになっています。立山登山について、あとは読んでもらえばいいんですけど。私がきて4年間は、三山縦走です。立山登山というとは大体室堂まで行って、そしてその日のうちに地獄谷とかそういうところを見て、次の日雄山に登って帰って来るというのがパターン。私が前に堀川にいた時もそれが主でした。私がきてからは2泊3日で真ん中の日に登る。1日目に行ったら周辺散策と地獄谷を見て、次の日朝...5時半くらいから出発して、一番ひどかったのは全部着いたのが7時半でした。何故かというとは雪が多くてコース

を変えてやったので。雄山から横づたいに行くので7～8時間かかるんですね。どうしてこうなったかということ、ただ行って帰ってくるだけは誰でもできると。できないかどうかと言うのを判断してやった。で何故変えたかということ雷です。あそこは雷を逃げ場がないので、それならどうするかということで八郎坂というのが去年案が出て、去年の6年生に八郎坂から弥陀ヶ原まで秋の遠足で歩かせたんです。確かめてOKだったのでやったんですね。今回の場合リュックを背負って八郎坂から全部歩きでしょう？だから6年生を見ていて話を聞いていたら、朝トレはもちろんのこと、ある子の回顧録ですがリュックに石をつめて築山があるんですが、築山を歩いたりしていた子供もいたと、言うことがひとつ。ふたつ目は、リュックを背負って山道を歩く時には、持ち物は最小限にしないではいけません。ですから必要最小限のものを持っていくということ自分でやらなくてはいけません。持っていきやつは全部担いで行かなくてはならないですからね、そういったことの成果がありましたよ。初めてでしたので、あの木道をずっと歩いて行って、今年は...去年の立山登山の時に福岡小学校の子供が亡くなったんですね。それで、八郎坂は携帯がきかないんです。あそここの無線機しか使えないので、木道のところは全部草が刈ってあったと...堀川小学校がいくもので。もうひとつは、『雷鳥沢ヒュッテ』のご主人さんがお世話をしておられて、いわゆるバスが通る道をずっと行って、こちらで無線で連絡しながら万が一の時の対応をして下さったというふうな...それがなかったらできません。そういうことをしてもらって、やっております。

こんなふうにして。私の言いたいことはこれだけなので。今ともかく心配しているのは、食が細くなっているな、大丈夫だろうか...という。でも確かに私達辺りはよく食べるのかな。これだけ動いているから。雨降っても水たまりがあっても、体育の服装が汚くなっているも走っていますので確かにたくましい。今問題がひとつだけあります。実は5・6年生になったら身長がどういうわけか市より低いんです。うちは大体40%は、他から移ってこられたり転勤族の方なんですね。そういう入れ替わりになっているから、一概にそれは言わないんだけど、走力・投力という運動能力というものはいいんだけど、身長がちょっと低いんです。こればかりはどうしようもないんですが。小さいけれどおかげさまでリレー大会とか相撲大会とか...陸上競技というのは結構頑張っております、今年と去年も5年生が100メートルで全国大会に行きましたし、リレーも女子は今年は失敗したから去年行ったんですね。今回堀川中学校が全国大会で優勝した最後のリレーのアンカーが、うちの小学校だったというのが自慢です。本当にそういった意味では、うちの子供達はねばりがあると思うし。そうは言ってもやはり差が出てきていますよということ。こういったことをお話しして、これからの進め方ですけど、あと時間が充分ありますのでひとつはこの「健康は生きる力の基盤」ということをつたない資料でお話ししました。そのことでいろいろ疑問になっていることをお話ししていただくことがひとつと、多分私、これだったら最後までいけばいいなと...このテーマで。思うんですが、もし時間が許せばこれにこだわらずに、皆さんが今子供さんあるいは学校で、いろいろな問題を持ってお

られることを話題として出していただいてのお話をしてもいいかなというふうに思っています。ちょっとこの提案は、私自身も苦しい提案をしておりますので、本当に申し訳ない。この辺の趣旨しかできなかつたんですけど、どうぞこの後、こういったことを...ということがあれば出していただいて、話し合いになればいいなというふうに思っています。何かありますか？

(司会) ワークショップですから、是非皆さまの方から色々なお話を交えて。本当にこの一室まるごとになっている非常にいい環境なものですから、いろんな質問なり自分のお考えなりをあちこちから出て、またそれを皆さんでお話するような...で進められればなということでございます。

(恒田) なかつたら、私がもうひとつ話をしたいのは、自分の子供の話をしたいんです。この健康ということについて、何かといったら私は自分の子供が病気をしたものだから、単純な話、病気の頃...西町に行くでしよう？で両親に手をつながれて買い物をしている姿というのがうらやましかつたんです。これからいう話は、うちの子の話です。是非あまり自分の子供の話をするのはよくないし...とは思いますが、本当に今でこそ...今は23歳です。体はスリムですけど身長は私より大きいんです。そこまできたんですよ。病気は何かといったら、お産して生まれた時に羊水が肺に残っていて、2日目の日に熱が出てそしてそれが広がったんですね。レントゲンを見たら向かって左側の肺が真っ白で動いていないんです、片肺だけなんです。それで左の方がふくらんでいる。何故かというと2つを1つで動かそうとするから膨らんできているんですね。早速市民病院...前の市民病院でした。その次に今度はダメでみんなもどすんですよ、ミルクを。搾った母乳も全部もどします。それでだめで金大附属へいきました。最初は小児科でした、その次が心臓外科へ行きました。その時に治療したんです。1つはアメリカから...肺が縮まっているからそれを広げるというので、ここへ注射器をさしてガスを入れる...膨らますと。僕は8時頃いって、2時間か3時間ですね。もうダメかと思ったんですよ、で行ったんだけど結局それもダメ。治まらないんですよ、結局は。ずっときてその時のエピソードになるのは、ちょうど冬場の12月25日に、もうこれで治療はないから帰ってくれと、ダメだから。それなら富山の日赤へと紹介していただいて、その帰り金大附属の病院から家まで7時間かかって行きました。それは高速にのればよかったんだけど晴れていたもので、そのままずっと石動まで来たんですがそこでストップして。実はトラックが横に動かないという。それで7時間かかったんですが、私その時熱があつたんですけど、その子よく生きていたと思うんです。ちょっと先へ急ぎますけれど何かといったら、今日みたいな日はもう外に出られないんです、寒いと。ですからまず、手作業は何かといったら、本を見たり何か小さなものを作るのはいいと。ですから砂遊びですとかは体ができないですので、まず手が不器用です。それとおもしろいのが、幼稚園に行ったのが4歳かな...行った時に何を言わ

れたかという、叩かれているんですよ。はっきり言って「いじめ」かなと思うんですけど、本人は喜んでいるんですよ。何故かという、そういう関わりを今までしていなかった。要するにふれあいが楽しいんです。それから運動能力ももちろん低いです。遊びの大切さというのは、大人ばかりの世界に在るでしょう。ですから声かけというのをあまりできなかったんです、今では大丈夫ですけど。それから小学校へ入ったら、何かといったら自分で何か1人でやりなさいと先生から言われても、きょろきょろしているから先生が行って「どうしたの?」と言ったら「こんなのをしてもいいの?」と言って「そうだよ」と言われてはじめてやる。つまり誰かの承認が得られないとダメなんです。その時に先程言ったように、西町界隈を手をつないでこう行くでしょう?できないんです。肺の病気のものですから、たくさんの人のいるところはだめなんです。もちろんインフルエンザもダメなんです。熱が出たらすぐに入院の準備をして日赤の病院へ行きました。最後ひどい話、ここに点滴しました。注射がされないホンマ先生という方で、注射されないんで最後はここでやりました。やはりその時に思ったのは、健康ってすごく大事だと。小さい頃に...今だから心配しているのは、小さい子供をもっと遊ばせなきゃいけないな。塾もいいけど。やはり友達との関わりは非常に大事です。だって今、兄弟も少ないでしょう。だから何とかしてそういうのを学校でも作ってやりたいし、家でも是非作ってもらいたいと思うんです。それがひとつと、子供には子供の世界があるんですね。ですからいろんな経験をさせて体をうごかして、その事が脳を活性化するし手も器用になるし、絶対そういうことになると思います。私の子供は、水泳は本当は1年生からでよかったんだけど、1年生でダメで2年生からやりました。実は簡単な話、日赤で治ったんです。それは、抗生物質さえうてば治るんだったんだそうです。でもそれがわからなくて、とにかく最初は真っ白でしょう?当時の市民病院の看護婦さんは、「この子は3日で死ぬよ」と言っていたんです。もうひとつこれは、近大附属へ行った時は大学の教授は「とにかく片肺をとってしまわなくてはダメだ」と、だけど助教授は...だから一晩かけて「絶対ダメだ、体力がないから」といって助かったんです。今では両方とも正常になっていますけれど。でもやはり、後遺症として、膨らんだ部分が残っているんですね。この間1年ほど前に、その部分を手術しましたけれど元気です。その時に思ったのは、普通学校で元気にしていることが当たり前と思うでしょう?そうじゃないですよ。実はこれがすごいこと、素晴らしいことなんです。それともうひとつ、やはり気になるのは机にちょっと座っている子と、廊下でなにか友達に交われない子。何か気になりますね。何かが一と廊下でしゃべっていたりしてもいいし遊んだりしている、そういう子は脳は活性化するし、手も手先がよくなるんじゃないかなと思うんです。そういった意味で何気ないことだけれど、精一杯健康でいると言うことの大切さ。やはり食べなかったら食べるようにしないといけないね。絶対にそう思います。もう食べない子...好き嫌いがあるというのはよくないんだろうけども、そうしてほしいな。食事というのは非常に大きい要素にはなるけれど。別に僕らでもたくさんのおかずがあったわけではないけれど、とにかく体を動かしたらお腹が減ったね。僕らの頃は

夕方遅くまで、母親も務めたことが一時期あった時には帰ってきたら自分でおにぎりを作って食べて味噌をつけて食べた覚えがあるけれど。だから自分はほとんど病気もしたことがないので、そういったことがいいのかなと。ほとんど嫌いなものがないし。ですから皆さん、こういうふうにおられる自分のお子さんを見ておられて、当たり前のようにしゃべり、当たり前のように元気で、当たり前のように学校へ行って、当たり前のように帰って来るというのは、本当に私にとってはすごい素晴らしいことなんです。ですから未だに... 2人の息子がいますけれど、会社へ行って帰って来るという毎日が当たり前のようにだけれど、非常に幸せです、本当。これはね、やったものでないとわからない。だから今子供に言っているのは、今の堀川小学校の子供に言っているのは、宿泊学習で汗をかいたでしょう？汗をかいた...それは爽やかな汗なんだと。学校ではなかなかそういう汗はかけませんよと。それも校長先生はそんな汗をかいたことはあるけれど、あなた達と同じ汗をかいたことはないんだと。これはあなたしかかけない汗、やったものにしかわからない汗だから大事にしましょう。それをまた次、もうひとつ自分で作ったらいいいね...と言っているんです。要は今ある仕組みの中で作られた汗なんです。そうじゃなくて自分で体を動かして、もうひとつ同じような汗を作りましょうと言っているんです。そういったことを今やっています。僕は言う方だけなんです、本当にそうだと思うんです。今汗をかきません、汗をかいたら「汚いからすぐに着替えなさい」とやってしまうでしょう？それでいいです。いいんだけど、もうひとつその前に「いや～汗かいてすごいね」ってほしい。「汚いね」っていうのはやめてほしい。だって僕たち、汚い話が毎日風呂に入らなかったですからね、それでも2日に1度くらいは入っていたんですけれど。でも本当に今の子達...うちの子は朝トレをやってくるから汗みずくになってきます。いいんだけど、あせをかいていない子供は になって見えるけれど、本当に汗をかくことがないなと思うんですよ。それだけ体を動かしていないということだと思し、それと今ここにも書いてあるけれど、家にいてもゲームはいいと思います...時代だからいいとは思うんだけど、体を動かすお手伝いだとかそういうものを、女の子にさせても男の子にさせない場合があるでしょう？関係ないですそこは、やらせない。何かそういうふうには組まないでだめですね。勉強していたら安心するというのは、本当の話そうだと思うんだけどそんなものではないのではないかと思います。

(発言者 A) ワークショップなので...。44歳で小学校5年生の親でAと申します。きょうはどうもありがとうございます。離れたら...今日の課題と離れていたらすいません。聞きながら要点をメモしながら...メモを見ながら話をさせていただきます。

私自身は富山で生まれ育って、転勤族の主人と結婚したので県外で子育てをして、小学校へ入る前位に戻ってきて、幼稚園くらいまでは本当に公園と友達みたいな生活をしてきて、なんだか小学校へ入ってからだんだん外遊びをしなくなって、テレビゲームと友達みたいな...どうしてこんなにインドアが好きなの？みたいな。毎日友達のお母さんとかと怒って

で、「どうしたんだ」と思うんだけど、必要悪かなあみたいに思いながら過ごしながら生活しています。担任の先生とお話した時に、「うーん、A君は教室の中でぼーっとしていることが多いんですよね。」と言われて、実はすごく悩みです。結構うちの子のクラスの子供達は、今時の子供達にすれば結構休み時間に外で遊んでいたりとか体育館で遊んでいたりとすることがあるのに、私は絶対この子はそういうポリシーで育てていないと思うんですけど子供は違う方に行っていて。ただ、割と参加することには躊躇しないので、例えば「何か見に行こう」といっても、コンサートも大人の見erようなミュージカルでも行くし、今日も一緒にではないんですけど「ちびっ子マラソン大会」というのに出てきたりとか、ちょっと仕向けながら。ただ本当の生の毎日の生活でいうと、どちらかという本が好きかな...みたいな。家ではそんなにまじめに本を読むわけではないんですけど、なんかそれで。きっと何か今子供達を見ていると、友達と心底共感できない子供...一緒に遊んでいるんだけど、本当に友達ではなくて...何となく上っ面で「一応友達」。テレビゲームじゃないにしても、一緒に公園へ行こうという友達もいるんだけど、上っ面の友達に私からは見えて...でも、本当に友達になるのは中学校・高校かなと思いながら、今は友達探しをしてくれればそれでいいだろうなと思いながら、なにか真剣にやり合うとか真剣に向き合うとか、そういう感じがなくて。何か表面で動いている感じがするんです。だから、ドーンとショックを受けるとか、ドーンと楽しいとか、ドーンと悔しいとか、そういう思いが自分の時代に比べたら少ないような気がして。睡眠時間的には、仕向けているんだけど...先生が言われたように、本当は熟睡しているかなという心配もちょっとあって。主人とどうしても「自分たちの子供の時と違うよね。」ってつい、それは口にしてしまいます。あと私事なんですけど、結婚するまでこちらのほうで、中学の教育現場のほうにいたんですけど、自分が小学生の親になって行くようになったら、「これは親子でしてください、親子で考えてください。」と言われることがすごく多くて、決してそれは、本当は対話を仕向けられるから悪いわけではないと思いながら、「なぜいつも親子で？」と思われるのかなと。さっき批判はやめてくださいと言われたのにすいません。それはちょっと、私の中ではいいことだと思っている反面、ちょっと負担です。正直なところ。かといってどうなんだろうというところもあるんですけども。すいません。

(恒田) 批判どうぞしてください。いま精一杯ここでやっていって頂いて結構です。その話を聞くと...今の話、友達とのつきあい方が非常に表面的だと言われた時に、私はふっと思うんです。結局私の基準というのはそこしかないから、自分の小さい頃どうかっていったら、家で遊んだらそんなものですよ。表面ですよ。我々と違うのは体をかけて、鬼ごっこをしたりチャンバラをしたり肉弾したりやって、体で覚えることが非常に大きかったでしょう。お互いに共有できる世界って、体でぶつかっているから「俺はこうだったよ」っていったら「おおそうか、俺もそうだったよ」という、そういう男の世界があったんですよ。女の子もそうじゃないかな。何か作るのを一生懸命やっていて...人形作りとかし

ていたら「私はこうしたよ」って言ったら「私もこうしたよ」というふうなことがありますね。今出てきたテレビゲームなり本を読むというのは、これは全部個人ですよ。だからふわーっとしてますよ。だからよく言われるように、友達で来るけれどそれぞれバラバラっていう、でしょう？それを称して子供に友達づきあいの心配というのは、私はあると思います。結局何かというと、体をかけて何かをする、作る...そういうことが少なくなっているんじゃないかなという。他の子供達と関わるということも少なくなっただすね。どうしたらいいかという話になりますよね。僕はそれは学校しかないと思っています。だってこれだけ、公園に行っても子供がいらないんだから。うちなんてまさしく今都市化していますので学校しかないなって。だから親にできることは何かということになると、私は最近...今の保護者の方達というのは、子供を連れて公園へ行くということを積極的にやっている、それでいいんじゃないかと思うんですよ。そこに違った子がいて触れあっていいし、どこかへ連れて行かれて広い公園なり広場なり、そういうところでいろいろ体験させることでいいんじゃないかなと思うんです。その中で何かひとつでも、他の知らない子供達と話ができたならほめてやればいいんじゃないかと。それしかできないと思いますよ。

それで「全部親子でやって」という話...僕は中身はわからないんだけど、今見ていて、今の私のテーマから言って、本当にこれは今家庭でどうのこうの言われたら非常に難しい。これって、親とのいろんな子供達とのコミュニケーションというのもあるけれど、やはりそういうところへ連れて行った時に、単に家族4人ほどいて「楽しんでよかったね」じゃなくて...それもいいですよ、だけどもうひとつどんなことを見つけたか、あるいは人との関わりで、こんな事を見つけたよ、やったよというふうなところをほめてあげて、「どんなことを話したの」と聞いてあげて...それでいいんじゃないかな。子供が体を動かす努力、手伝いも大事だと思うんですね。お手伝いをしているというのは結構あるんですよ。大体388人中302。これは、「家事を分担させ、自分にできることに取り組ませているか」という質問に対して、「よく当てはまる」「やや当てはまる」というのが...人数を間違っていました、これが224で「あまり当てはまらない」と「全く当てはまらない」が144。つまり、144だったら大体半分半分です...3分の1くらいですね。これが、お手伝いとか家事を分担させないというのと、読書の楽しみにふれる機会をあまり持っていないと...この2つ。これが多いんです、他に比べて。だからこの辺にもひとつあるかな。それから「朝食をおいしくって登校できる」これが多いんですよ。これが315、388人のうち315ですから、おおよそ朝食はとってきていると。おいしくって送り出しているなと思うんですけれど。お手伝いだとか...読書は別ですけど、体を動かすことが少ないなと思いますね。睡眠もけっこうこれでとっている方でしょうね。それから家族と一緒に食事をとるというのは、全部で388人中361人ですね。だから一緒にというのは全員揃っているかどうかわかりませんがね。というふうになっています。だから体を動かす努力をしていかないと、どうしても便利になってくると大人も一緒に...体を動かすことはしていませんから、それは意識的に作って行かなくてはならないだろうというふうに思っています。う

ちの学校で言えば、朝トレが終わったら朝活動というのがあるんですけど、朝活動は... 実は掃除の考え方じゃないんです。私共の学校は6クラス規模の学校で今3クラスしかないんで、そのために外と中とどこへ掃除にいても良いんです。4人グループになっていて、行かせるんです。中に4年生の時にトイレ掃除をやった子供が、5・6と3年間そのトイレ掃除をしていたと。自分が4年生から5年生になった時にもそこに来たら、新しく4年生の子と出会うわけです。中に1年生のところをやるっていた子もいますし、花壇作りをする子もいますし。要は何かというと、自分たちの環境は自分たちで整えると。だから、掃除は「やらせている」んじゃないんですね。考え方は、汚かったら子供は掃除をする意欲が湧く。その時のポイントは、理科室を1日も使わないのに「昼に掃除しなさい」と言われて、どこを掃除するんだと。先生が行ったら必ずサボっているから「はい、掃除しなさい」といって...「まじめにしなさい」と言われて。そういうことじゃないんですね。そこがどういう状態かと。汚いなら汚いなりの掃除があるし、使ってなかったら使っていない掃除がある。だって習字とか図工とか理科をやれば、必ず先生達はみんな子供達...何も言わなくても掃除しだすでしょうと。そういう考え方はやめよう、自分で「こうすればきれいになるよ」というところをどんどんやっていきましょうというので。当時はトイレに...あるいは廊下に花をふっと生けている子供がいましたしね。もちろん溝掃除をやったり花壇作りをしたり、すごい勢いでやりましたけれどね。要はそういう仕組みを作っているんですよね。体を動かすように。どこでもこういう、体を動かさない方法じゃなくて何かそういった場を作らないとどうしようもないなと、どうしようもないなという事を思いますね。これは結論にも何にもないんで私も悩んだんですけど。

(発言者 A) 15分の朝のその時間の中で掃除もやるわけですか？

(恒田) いや、その後です。8時15分から約30分間くらいですかね。

(発言者 B) 先生、私は総曲輪小学校なんですけれど、ひとクラス19人なんです。それで、月・水・金と一応陸上という名目で、走っているのは何かわかりませんが...やっていますよね。そういう... だと思っただけなんですけれど、そういう中で、ずっと5年間一緒のメンバーできて、そういう競争心というものが芽生えているのかいないのか、わからないんですけども。そういうものって、今度統合しますでしょう...そういう競争心というのは出てきてほしいんですけど、どういうものでしょうか。

(恒田) 寒江に、私は2年間いたんですけど、あそこは保育所からあわせるとおよそ9年間ですね。4歳から確実に保育所に行っていますので、9年間という競争心はないですね。どうするかというということでしょうか？

(発言者 B) そうです。

(恒田) その時に何がポイントかといったら、6年生が 八チワクいるんですよ。学年大体 10 何人ですよね。その時に何クラス...あの時 10 クラスかな、それをばーっとばらまく。14~15人であっても、ひとクラスに1人か2人でしょう?何かといったら必ずカルチャーショックで帰ってくるんです。そうかっていって。何していると言っている人は、そんなもの絶対ばらまく必要はない、4~5人かためてばばっと寒江へ入れてくれとというのが1つ。ふたつ目は、あなた達がやっていることは、私が見てきたなかでこれが素晴らしいんだから、絶対に自信を持ってということを書いてきたんです。ですから、はっきりいって序列がついている。けんかならこいつが強いので、勉強はこいつが強いので...。それをどう意欲をやるかといったら、やはり「これはすごいよ」ということを言わない限りダメですね。あの時先生方に言ったのは、「あなたたちはすごいよ」と言ったら大抵、「あたりまえでしょう」と、そうじゃないんです。1つ言うと、その時私...校長・教頭・校務が変わったんです。上三役全部変わったんです。そこへ行った時に、教頭先生が音楽をしてこられて、「この子供すごいね」と職員室で言ったので、「音楽でこういうことをやったんで、すごいわ、はじめてだわ」と。みんな唖然としました。「先生ほんとう?」「本当だよ」って。実はその子は問題児なんですよ。我々みんな新米ですから...なんでそんなことを言われたか。この子は何年生の時にこういうことがあって、家族がこんなで...全部言うわけです。だから結論的にこの子はよくないと。そこなんです。先生目も曇ってしまっている。やはり、その子その子によって頑張っているんです、それしかないと思うんです。だからそれを、「この人に勝て」っていてもダメです。絶対にわかってしまっている。だから、その子その子によって「あなたはこれを、前もすごく頑張ったじゃないか」とね。他は誰もやっていないよとか。それしかないと思っています。やはり10何人と言うところで9年間きていれば、親もわかっているし子供も全部わかっている。我々以上にわかっている。それをどう崩すかと言う時に、今みたいなことを親も先生も一緒になってやるべきだね。そうでなかったら、小さいところはいつまでたっても「意欲がない」とか「素直だ」とか...「素直」というのは何かといえ、言われたままにしているんです。だってあの子たちは、10人なら10人の1つの集団なんですよ。だから「そっちへ行け」と言われれば全部行ってしまおう。でもその中にちょっとでも違ったことをしていたらほめるかどうかの問題だと思いますよ。どうしてもみんな同じ...この子はこういう事をするだろうというのですんでしまおう。そうじゃないんです。そう思いますよ、それしかない。だから我々3人言ったのは、全然先生達が知らないことを見つけようといってやっていったんです。実はさっきお話しした中に、学校を知ってほしいと言っているでしょう?それは実は堀川小学校は、私に来てからそれ以前の時も全部支えてもらっている。みんな「堀川小学校はいいですよ」と言われるからね。それでその話をしているPTAの人と話をしていて、「堀川小学校は朝トレをこういうのでやっているんでしょう?朝活動は別に範囲を決めてこん

な事をやっているんですよ」「ああ、そうなんですか」というこういう話です。それも5年生の人ですよ。5年間やっていて、子供が朝活動をやってることも知っていて朝トレをやっていることも知っているんですよ。だけど、どんな考え方でどんな子供を目指しているか全然知らないんですよ。それじゃだめなんですよ。だってそれを知っていかなかったら自分の子供を見る時に、「朝活動をこんなことをやったよ」と言って「ああ、そう」って言うてはだめなんです。何で言うかと言ったら、それは他はしていないし自分で見つけたことをしているから...ということがあれば、ほめれるわけです。だから知ってほしいって言ったんです。もうひとつは「堀川小学校はすごいね、すばらしい」って言われて「何故ですか?」といわれるのは研究会やってでしょう、教育実習やってでしょうと言われるから「そうですよ」と。それで素晴らしいと、それはおかしいというんです。支えてもらうのがいいからいいですよ、私は自分の子供がいたら堀川小学校に入れますよと言ったんです。何故かと言ったら、こういった点とこういった点とこういった点がすごいからいいよ...そういう話をせざるを得なかったんです。何か盲目的に...さっき言ったように批判しないでくださいと言ったら盲目的に全部いいよと。そうじゃないんです。細かく知ってほしい、もちろん批判を言ってほしい。そうしたらお互いに高めあえますからね。学校のやっている事の表面...少人数指導をやって、こうやって2つの教室を3つのグループにわけてやっているんですよ。その時に「ああ、やっているの」と言うてはだめなんで、先生がどんな風にかかわっているか、子供が違った子供がいるわけです。それは特に違った子供の姿が見えるから学校へ来て見てくださいよというそういうこと。でほめてやってよということを言いたいんです。これだって家にいてほめることも、卒の小さい中でやるから学校とお互い相互にやっていって、学校でもほめる家でもほめる。学校で叱れば家でも叱る。逆だったらまた相談をする。そういうふうにしないと絶対に育たないですよ。だから学校へ来てくださいというのは、そういう意味です。

参観日に行くと、1年生の教室を探しますね。最初は静かに端のほうで静かに見ておられるんですね。2回目になるといよいよ隣と話がはじまるでしょう。だんだんそれが広がっていくんですよ。でも、よく言われるようにお母さん達が話を交わすということが邪魔になることがあるので、叱ることがあるんです。私は言ったんです。逆にそれはいいと思って総会の時に言ったんです、去年の1年生をみてこうだと。そこで何かと言ったら、今の時代に、さっき言った30対1という話をしました。その時に話をしているのは非常に好ましいこと、ただ場がふさわしくないから外へ出て話をしてほしいと。それはいいことなんです、みんな飢えているんですよ、本当を言えば。お互いにそういうふうなコミュニケーションを...ネットワークを作るといというのは、本当はそういうところへ出て、顔を知って名前を知ってお互い連絡とれるようにすればいいなど。そうでなかったらこれからできないです。これにあわせて言うと、保護者の方は今自分の子供を...極端なことを言うと自分の子供の世界しか知りません。私に言わせれば...変な話、我々の時代は子供がたくさんいたから、同級生もたくさんいたから自分の子供と他の子供と...同級生・同年輩の子供が

いるでしょう、勉強しているんですね。今はあまりないですよ、子供もいないし。だからこそ、そういう機会に子供をどんどん見ていただきたいし、先生の関わりを見ていただきたいし。そういうことをしてもらいたいと思いますね。

(司会) あと時間的に15分くらいでしょうか、ございます。10分ですね。せっかくの場です。

(発言者C) いいですか?50代の父親というか、子供も大きくなってしまっているんですけども、先程ちょっと話があったように堀川小学校は目標を立てて1つの立山登山...それが偶然朝トレとドッキングして、ひとつのやっている。その辺のやり方というのは、僕は聞いていて非常に新鮮だなと思ったんですけど。会社でもそうなんです、目標を立てないと動かないんですね。「やれ」と言ってもダメだから具体的に必ず何か目標を。小学校でも中学校でも、学校でもその目標を設けてやるというのはいいことなんです。その中で最後に、今話の中にあつた父親・母親...家庭の方が日頃の忙しさに負けて、学校の状態とか同じ町内の...同じ年代の親御さんの事をあまり知られていないような感じだと思うんですね。ですからそういう意味で学校へ行って来た方がいいですよということも、ひとつそうですし、僕は今町内の役もちょっとやらせてもらっているんですが、町内の行事が何かあった時でも、集まった時に自然と同じ年代のお母様方と話される。そこで一生懸命子供さんを間において、ああでもないこうでもない。それが非常に...多分自分の世界を広げる事に非常にいい特效薬になるはずなんです。ですから家庭の中で...家庭だけで女房と話したり、じいちゃん・ばあちゃんと話したりすることも多分大事な事なんですけれど、町内の中でもそういう行事に出て...たまに出てですね、同じ年代の方とちょっと話をすると、多分お互いに別々の悩みがあってその悩みが何かの時に出て、話し合うというそのきっかけにもなってくると思うんですね。ですから学校へ行くのも大事ですし、町内のちょっとした行事に参加することも大事ですね。それが結果として自分の視野を広げるということですかね、それが子供さんの教育までと言うとちょっとあれかもしれませんが、でも視野が広がるということは非常に教育の面においても他の面に置いても、多分いろんな発想が出てくるから、僕は非常に大事なことだと思っています。ですから、僕は教育という...学校にとっては直接関係ないんですけど、会社では別の形での教育。昨年からはちょっと、知り合いを通じてあるって聞いたので、去年は鍵山さんの話を...掃除っていう事で。今回はちょっと、僕は大人年がきたので健康というものに...健康管理をしなくてはいけないと、自分に健康管理によいことがないかなと思って、今回ちょっと出させてもらった。その中でやはりいわれるのは、会社も学校も一緒だなと思ったんです。その中で、やはりいろんな人と話をして悩みを共有するというんですか...目標を共有する。その中で少しずつ自分の考え方を広げて、広げた中で子供さんにも多分影響を与えるんじゃないかなと。

最後にひとつだけ。いろんな形で...今日恒田さんがこられて、偶然同じ名前なんですけれど、いろんなベテランという立場で言っておられるんですね。子供さんの病気の時に「抗生物質でいいですよ」と言われた。見方というのは人が持っているノウハウって言うのは全然違うんですね。誰に相談するか誰にしたらいいかって言うのは、やはり限られた中で判断しなければならぬ。病院へ行けば...金大へいけば非常にいい病院ですよというのは当然誰もが思うんだけど、行ってもそこにいる先生...自分の担当している先生が本当に的確かということはわからないですね。それは結局人生の中でも僕は一緒だと思っているんですね。いろんな話をした時にAさんに聞いたらこう言われたと。Aさんというのは非常に立派な人だからそれで一番いいのかなという、かならずしもそうではない。逆にBさんに聞いたら全然違った逆の意見を言われるかもしれない。それはそれでまた別の見方ですから。絶えず自分の視野を広げる意味で、いろんな方と話をする。中にベテランの方の意見も非常に尊重する人もいます。ベテランの方は非常にいろんな事を知ってますから。そのベテランの方の意見も大事にする。何を言いたいかという、家の中で若い方がどんどん別居して、若夫婦で住まいをしていけます。でも世の中は、じいちゃん・ばあちゃんっておられて、非常にベテランの方がおられる。いろんな事を知っておられる。それが家庭の中でも生きてくるはずなんです。でも結果として、わずらわしいとかいろんな理由があって、離れて行かれる。そうするといざというときになかなか、じいちゃん・ばあちゃんが持っている知識とかいろんな経験というものが結局無駄になってしまうんです。でも、一緒にいると...もしくは絶えず連絡をとりあって親密になっていると、いろんな情報をもたらえるから、それで家庭の中で子供の教育にも生かされると思うんです。ですから、人生の中でベテランの方のものをどううまく...いい意味で使っていくかという暮らし。健康も非常に大事ですけど、そういった中でうまく調整していくと、子供さんとの教育いろんな面でプラスなんじゃないかなと思います。今日は健康という面で自分なりにもう少ししめていかないといけないなと、しみじみ思ったんですけど。

(恒田) 今目標というものを掲げて学校経営をしていると。今県の校長会として3つあげているのは、知・徳・体です。知はいわゆる小学校教育研究会の学力調査結果。ふたつ目は、徳はいじめゼロとかいろいろあると思うんですけど、そういうこと。そして体はいわゆる欠席率でいっているんです。けんか全てこれでやっているんですけど、これで3年目です。校長会としては各学校でそれぞれの目標値を決めてやっていくと。中に挨拶の数を掲げているという学校もありますし、いろいろと工夫していると思うんです。数値的に表せる部分とそうでない部分もありますから、その辺のところは一般の企業と違うところだろうと思います。でも最近では学校評価ということで、いろいろと数値目標を上げて...これからはどんどんそういった方になっていくと思います。何を今年度の重点にするのか。あるいはもっと、本年度だけじゃなくて、例えば3年をめぐりにここまで...例えば不登校を減らすあるいはゼロにするとか。うちの様に欠席率をここまで持っていくとか。挨拶も

あるし、数値化できるものは限られてきますが、そういったものをひとつの目標にして取り組んでいくということはやっているし、これからもどんどん出てくると思います。またそういったことで、校長等の挨拶や学校等の説明の中に出てくると思います。あとは学校評価というもので、うちもこれでやっていますけれど...いろいろとやっている。うちの中で自由規律は388人中35人ほどかな。1年目はちょうど学力が一番盛んな頃だったから、計算と漢字・読みの力を付けてください...それがすごく多かったですね。それからカゲヤマ先生の計算方式を使って、計算力を付けてくださいよとありました。ああそうだなって。ですから、学力論争がうるさくなって。言いたいのは...私ははっきり言ってプリントの点数を上げるというのは簡単です。訓練をすればいいんです。先生達が今苦労しているのは、それだけでやろうとすると絶対無理です。だけどできない子をできるようにする時には、教えこみです。絶対しなくてはいけない。これは、よくかっこよくできない子は必ずいるんです。それを100%全部できるように努力をするけれども、計算できる子をほったらかすわけにいかないから、「こうしなさい」とやります。それを手を抜いている先生は。富山県にはいないと思います。さっきした話、残すと交通事故だ誰が責任を持つかという話になってくるんで。でも、本当にありがたうと言われたらうれしいです。学校の先生も喜んでます。「迎えに来ましょうか？」と言われたらもっとうれしいです。やはり、さっき批判的と言ったのは、そういうことで「交通事故になったら誰が責任を持つんですか」「うちの子は塾へ行かなきゃならないんですけれど」と言われる方もおられれば「今日は塾へ行かなければならないんですが、まだ帰れませんか？」というふうに言われると違うんですよ。でもそういったことで元気をつけてもらって、先生方はがんばっているんで。成績そのもの結果そのものを云々されると、全てそれに尽きるんじゃないんです。でも結果は結果としてこれは頑張らなくてはいけないと思います。そういった意味でこれから...ひとつ言いたいのは、私は元々学校教育というのは限界があるとわかっているんです。ですから皆さんが塾へ行かれても僕は構わないと言いたいね。ただその時に、先程みたいに10時に帰ってきていたら生活のリズムができるのかなという、本当に大丈夫かなと言う心配があるし。本当にこれは本人が望んで行っているのかなと。それが行きたいと、そこが楽しいというのであれば行かせたらいいね。学習なんて言うのは学校だけじゃないです。塾もそうですし、それから図書館もそうですし、ピアノなんかまさにそうです。学校でなんてできるわけがないです。よっぽど上手な先生であっても、子供にかかり切りになるわけにいかないですから。そういった意味で最後にやはり、元気なうちはまだこうやりましょうと言う元気が大人も出てくるように、子供は通常心の健康を害した場合、体の健康はよく見えるけれど心の健康も...そういったことも是非見て置いてほしいし、そういったことがあったら担任の先生と情報を流すことが大事ですよ。特に心の問題については、サインは担任もわかっているでしょうし、保護者の方も家へ帰ってからわかったら情報交換をして、何がそうさせているのかという要因を考えることが大事ですよ。そういうことで、あたりまえのようにやっていることが、まずすばらしいということ。そしてやはり、正面に向

き合って...お母さん方、うちの女房が言っていましたけれど、テレビを見ていたら口を出す前に6秒一度ぐっとがまんしたらいいと言うような話を聞いたんだと。うちの家内はよく喋るもので、パパパッとやってしまうから。今大人になっても言いますよ、「お母さんは僕たちがしようとする前に言ってしまおうし、言おうと思う前に言ってしまおうし、いまだにそうじゃないか」って。大きくなってもまだ言っていました。29と23、いまだに抜けきれない。子供の小さい時のイメージと同じようにふっと言ったら、今はパスンとやられていますけれど。そういうところ。少しでもそういうところを頭に入れて...絶対僕は今言って明日から変わるかっていうと変わらないですよ。でもこう言ったことをお互いに話しながら少しずつ変わっていくようなもので、我々教員というのは新採からベテランのところまで、その教室同じように子供を指導しているんだけれど差は歴然としている。じゃあそこで、どうやっていくかという。力の差つくかということそんなに違わないですよ。一生懸命やっている学級というのはベテランも新米も変わらないので、そこで大事なのは新採でもベテランでも学級が乱れてきたら、絶対ダメです。これは最近、新採よりも中堅どころが弱っているんですよ。「教育ってこういうものだ」というときに、それを押しつけていたら横から全部はみ出る。ちょっとそういったのを聞くんですよ。だから頑固になる部分と柔軟になる部分、だから今意識改革を言っているのは、年が行けば行くほど自信を持っていくのもいいけれども、子供がかわっているんだよ親が変わっているんだよ、その辺のところを充分考えていかないと金科玉条にやっても、絶対反発がくるに決まっているよとって。一緒にそれは一朝一夕には治りません。だから研修を通して少しずつそれをやっているんでね。だから教育というのは時間がかかるし、言ったからすぐになるものではない。やはり我慢をしなければならぬし、危ないことはスパンと言わなくてはいけない。その辺のところはお互いに子供と共に育っていくんじゃないかな。我々もそうです、格好いいことをいっていますが今この年になったら、先生達が入ったとたんにわかりますよ。この教室は日頃どうやっているかと、およそ子供の動きでわかります。だからこの教室だったら先生が線を引かれているとか、この教室だったら自由な雰囲気、あったかい雰囲気があるなど大体わかりますね。そういうことがひとつあるのと、見ていたら「こうすればいいのに」と姑根性が出てくるんです。それは抑えています。言う人とそうじゃない人がいますからそれと一緒にだと思おう。言ったらもう、いっぱい言ってカンカンになってしまったら、子供と一緒になんにも言わずに「はいそうです」で終わってしまうので、ぜひこういうところに参加される方は少しずつ成長されると思うんですけど、私も参加させていただいて、今の意見を聞いていいなと思うことをやってきているので、人間の成長と同じだと思ってます。ありがとうございます。

(司会) 皆さんいろいろお立場のご意見なり、「こんなことがあるよ」と人間との関わり合いですとか、学校へ出てきていろいろな面でかかわってとかいうお話。こちら側からいろいろご意見がでたんですが、そちらの方がでしょうか。何か。

(発言者D) 時間の方はもう終わりなんで

(司会) 終わりなんですけれど、もしあれでしたらどうぞ。

(発言者D) うちの上の子は、小学生じゃなくて今中学3年生なんですけど、中学校は何をしに行くかという、うちの子辺りは勉強じゃなくて部活をしに行くというそういう子でしたので、引退試合が終わってから部活がなくなって、部活の1人の友達が他の3人の子とした事で大変なことがありましたので、その事がきっかけでその3人が家出をして家に来たんですよ。とにかく幾晩かまともに寝れていないからうちで休ませてくれと子供は言ったんですが、前の晩にお母さんが「来ていませんか」と泣きながら探しに見えてたこともあって「馬鹿なことを言わないで、家出してきた子を家に置いてあげると言うことはできないし、お母さんも探しておられたんだから、とにかく家にいるということを連絡だけはするね」って子供には言ってそのお母さんに連絡したんです。3時間でも4時間でもちょっと一休みしてから迎えにくるなら来てほしいと、そういう連絡をしたんですが、お母さんの方は幾晩も子供を見つけれないものですから、警察に知り合いがいて届けも出してあるからと言う一言で直ぐに来られたら、結局うちの子も一緒に友達を裏切ったことと一緒にだと言うことでぱっと飛び出して。あとはまた違う部活の子に連絡をとって、その子も飛び出すというそういう形になって。もう夏休みはそういう状態でしたね。家には戻らない。結局は警察の方が友達の家にいるところを保護して帰ってきたという状態だったんですが。2学期に入ると体を動かすのが好きですから、運動部に入っていた子なんかは「運動会がある」というんで結局またそれで張り切っていったのはいいんですが、1人の子は運動会のことでちょっと暴力的なこともあって、出れる出れないとかそういうことになったというので、少しやろうかなと思ったところにまた...と思って。こっちの方はどうしていいかわからなくて、今は1週間に1回ずつ学校の方にカウンセリング方も来ていらっしゃるんで、話も聞いてもらったりしてたんですけども。何度かカウンセリングをしてもらって...昨日もカウンセリングの方とお話していた時に、6人で2人子供のお母さんは、先生の方ともいろいろかみ合わないところもあるし、子供がカウンセリングの先生と話をして、その印象を聞いてからじゃないと私は受けられないと。もう1人のお母さんは、一番最初相談するのは1人でとにかく相談をしたいからということで。その子達が最初、私達が相談しているところに入ってきたんです。そしたら子供達が最初に2人言ったのは「自分の親は来ていないのか」というのは暴力をした子でも、3度も私に聞いて来たんですよ。その子供には、お母さんは子供の話を聞いてからって慎重になっておられるからっていったらそれで納得して、もう1人の子はやはり「俺の家は」って聞いてくるんですよ。その時はお母さんは先に話を聞きに来られたと、私は伝えたつもりだったんですが、帰ってからお母さんと話をしていたら「なぜ来なかったのか」と聞いてきたって。も

う1人の子は、明日またカウンセリングがあるんですが、その時はお母さんは来られるんですが、それを聞いたらまず安心していると思うんですね。ですから子供の家出も最初は私は親としては、体を毎日のように動かしていましたので、そういうのもあって飛び跳ねたのかなとは思ったんですけど、親との繋がりじゃないってですとか関わりとかいろんなのが足りなかったのかなと、いろんな方の話を聞いて思ったんですが。もう中学生3年生になっているので、小学生のように「さあ遊びましょう」といって遊べる年ではないので、どういうふうにしていけばいいとか、それも今他のお母さん達と毎日のように連絡を取り合っているところです。ちょっと今の健康とか体力とかとはかけ離れると思うんですけど。

(恒田) 目当てとか目標とか、自分の具体像としてなくなってくるとね。受験はあるんですね。そういうこれまで、体を精一杯動かしていたのがとたんにストップした時のものが出てくるんだろうと思いますよね。私もずっと野球をやってきたのでわかるんですね。ただそこを、今は家出するというか...具体的にどういう心情でそうなったかわかりませんが、そこまでは思わなかったですけど、体の持っていくようがないですね。それは思います。

(発言者D) そうだと思います。

(恒田) 変なもので友達はずっと受験で入ってくるでしょう。こっちは入っていつているんだけど、体を動かさないと何か調子が悪いというのがありますよね。だから中3の時にどうかな、僕の場合は親が入ってもらっていたらイライラするだろうね。自分で何とかしていこうと思うし、責任をもたせなくてはいけない。ただ人に迷惑をかけるという今の状況で、家出なんかするとそれは親がかかってでもしないとどうしようもないと思うよね。3年生くらいになって、自分でどう判断するか。やったことの実実はそれはよくないことだし、これは厳しくやらないければならないと思うし。やはり体を動かしていたのがピタッと止めたら、上の子も野球やっていたので、なんか帰ってから近くにスポーツ公園があるので体を動かしたり、バット振ってみたり、それを解消するために自分なりに工夫をしていたと思います。友達は結構仲がよかったので、結構あっち行ったりこっち行ったりして悪さもしたみたいですけど、たまたま補導されたという経験がなかったのでその辺も語らないし、やはり気にしていたのはその一点「人に迷惑をかけるようなことだけしていなければ、とにかく離れよう」って。下手に3年生位って、他のお子さんはどうかかわかりませんが、私だったらとやかく言われるとかちゃんと来る。

(発言者D) なおさら反発してダメになっている。2学期ちょっといいほうに、朝おきれないというのは、親に起こされると腹が立つから友達とお互い電話のやり取りをすると

いって、そうしていたのが9月20日くらいですかね。また違う子が家出して何泊か帰っていない子が「出ていけ」と親に追い出された子がですよ...来て「一泊泊めてくれ」といわれてもやはりそういうことはできないものですから。やはり起こすわ、連絡するわと言うとそれでまたうちの子は腹を立ててしまうと。

(司会) 今は中学校のほうでカウンセリングとか何かは

(発言者D) 受けています。はい。

(司会) そうでしたら、ちょっと時間が...よろしゅうございますか？先生の今のお話で。一応皆さんお時間があるかなと思うものですから、すみません。そういたしましたら皆さん、長い間ありがとうございました。先生には本当にいろんな事を教えていただき、和やかな中にお話を承らせていただきました。先生、どうも本当にありがとうございました。

(恒田) 堀川小学校に私はおりますので、せっかく顔見知りになったので電話でもどうぞして下さい。あんまり学校にはいないものですから。前の学校でもあるんですよ。電話かかってきたりした時に自分なりに、どこまで参考になるかはわかりませんが、お話は聞いてあげてお話をしていますから、いろんな問題もありますから、電話なりまたそういうふうに連絡していただければというふうに思っています。ありがとうございました。